

NIAふれあい掲示板

NEWS 7月号



平成26年7月1日発行
習志野市国際交流協会
日本語教室部会
vol.33

◆NIAの予定 7月～8月◆

| | |
|--------------------|----------------------------|
| 7月2日(水)～7日(月) | 七夕祭り 習志野きらっとサンバ |
| 7月20日(日) | 習志野市青少年海外派遣(姉妹都市：タスカルーサ市) |
| 7月24日(木)～8月6日(水) | 習志野市青少年海外派遣(姉妹都市：タスカルーサ市) |
| 8月23日(土) | 学習者と日本語ボランティアの親睦会(みんなで盆踊り) |
| 8月28日(木)～12月11日(木) | 日本語ボランティア養成講座 |



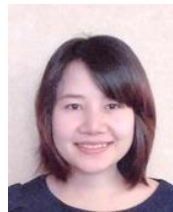
昨年の習志野きらっとサンバ

◆学習者紹介◆

- ①名前(学習曜日) ②出身国、都市 ③趣味 ④一言 ⑤担当日本語ボランティア



- ① クスワル スミタ(月)
- ② ネパール、カトマンズ
- ③ インドのビデオを見たり、歌を聴くこと。ショッピング
- ④ 着物を着てみたい。
- ⑤ 井上 廣美



- ① 多田 シラパボン(水)
- ② タイ、ムクダハン
- ③ 音楽、ショッピング、インターネット
(タイの音楽・ドラマ)
- ④ 日本で沖縄や北海道など旅行をしたいです。
バス・電車の時刻表の正確さにサプライズ!
- ⑤ 下野 かおる



◆あすなろ会 茶道教室 5月26日(月)～29日(木)◆

5月26日(月)、28日(水)、29日(木)の各曜日に茶道教室が開催されました。参加者は学習者25名、日本語ボランティア(手伝いを含む)27名の合計52名が参加しました。取材した5月26日(月)は茶道を体験するのが初めてという学習者がほとんどでした。

いつもとは違った独特の雰囲気の中、入口で履物を脱ぎ、茶室に入り、慣れない正座にトライする様子はどこかみんな緊張気味。進藤先生の挨拶や話を聞き、ほっこりできた頃、各々のところに和菓子が運ばれてきました。この日、用意された和菓子は“あじさい”と“都忘れ”の花をかたどったもの。“あじさい”は習志野市の花で、私達にとってはとても身近な花です。ちょうど今の季節、町の色々なところで咲いている様子が見られます。また床の間に飾られていた掛け軸には“ひょうたん”が描かれていましたが、これはゲストの無病息災を願うものだそうです。これがさり気ない“おもてなしの心”なのだと思心しました。また茶道具についても説明がありました。皆が意外そうに覗いていたのが煙草のキセルでした。この日はもちろん禁煙でしたが茶席では煙草を一服することもできるのだそうです。その後、先生の説明にそって実際に自分でお茶を点ててみることになりました。作法を気にしながらお茶を点てるのは少し難しそうでしたが、新しいことに挑戦できたことみな満足そうでした。



習志野市の花 あじさい



茶道教室の後、学習者に感想を聞いてみると・・・

茶道には多くの作法があり複雑でとても難しかったです。抹茶とお湯で自分でお茶をつくり、すごく面白かったです。茶道の雰囲気が大好きになりました。これから生け花や折り紙もためたいと思います。(写真右：セシルさん フランス出身)

茶道の説明がおもしろかった。小さいナイフで和菓子を切って食べると甘くておいしかった。お茶の味は甘くないけどおいしかった。最後は足が痛くて困りました。(写真左：ルイスさん メキシコ出身)



◆タスカーサ市 青少年訪問団受け入れ◆



高校生たちの国際交流

6月19日(木)から28日(土)まで習志野市と姉妹都市であるアメリカのタスカーサ市から、高校生17名と引率者2名が来日しました。イベントが盛り沢山の日程の中、一行は24日(火)は市立習志野高校を訪ね、1日たっぷりど若者同士の交流を行いました。午後から取材しましたが、まず茶道部員による茶道を体験していました。慣れない正座で足がしびれないよう椅子に腰かけながら、私語を慎み日本の作法に倣って肅々とお抹茶と和菓子をいただいていた。



次の時間は、1年生の各教室で数人のグループに分かれ、そこにタスカーサの高校生が1人ずつ入り、英語で自己紹介をしました。最初はお互いに緊張していましたが、「これは私が飼っている馬の写真よ」とか、「私の髪は日本人とは違うでしょ。触ってもいいわよ」などの一言であっという間に緊張が解け、あちらこちらで笑いが起こり、若者同士しっかりと国際交流をしていました。

日本文化体験では弓道が一番人気でした。1週間ほど前から先生の助けを借りて英語の説明を準備し、異国のお客様を一生懸命おもてなしする習志野高校の生徒たちの健気さと、タスカーサの高校生たちのフレンドリーさがとても爽やかで、清々しい気分になりました。(鎌)



ホストファミリーを終えて

岸 美穂 日本語ボランティア (水)



6月19日(木)~22日(日)までタスカーサ市青少年訪問団の受け入れをしました。2年前に続き、2度目の受け入れとなりました。今回我が家にステイしたのはシェルビーカステラノスさん。サッカーが上手な笑顔の素敵なゲストでした。

最初は初めてのホームステイに少し緊張していた様子でしたが、小5と小2の息子たちの歓迎ぶりに少しずつ慣れていきました。特に小2の息子は海外からのゲストに大喜び!言葉の壁などにせず、一緒にゲームをした



り、サッカーをしたりして楽しい時間を過ごしました。日本食も大好きでお寿司や納豆も食べました。何でもチャレンジして異文化を楽しんでいる様子がとても印象的でした。もう少し時間があれば一緒にお料理もしてみたいかったです。

タスカーサ市とは

タスカーサ市はアメリカ合衆国南部のアラバマ州 中西部に位置し、人口約8万人。「タスカーサ」は「黒い勇士」を意味するアメリカ先住民の酋長の名前に由来しています。日本との時差は15時間(夏時間では14時間)。人々はアメリカ南部の温かいもてなし「サザン・ホスピタリティ」で迎えてくれます。



◆日本語ボランティア研修会に参加して 6月20日(金)◆

小澤 友恵 日本語ボランティア (水)

2月から日本語ボランティアを始め、今回初めて研修会に参加させて頂きました。私が学生の時に学んだ日本語教授法は、「みんなの日本語」を基にしたもので、can doと言う教授法は初めてでした。ですので、全く視点が違う様な印象を受け、講師の西川寛之先生の一言一言がとても衝撃的でした。それと同時に大変興味深く、教科書は骨組みであり、実際に使われている言葉、それに伴う知識が重要という考え方は学習者にとって今すぐに知りたい日本語であり、情報ではないかと思いました。私なりにこの研修を活かし、実のある授業をしていきたいと思いましたが、機会がありましたら一度can doを用いた模擬授業(実際の授業でもいいのですが)を見学してみたいと思いました。今回は大変勉強になり、とても充実した時間を過ごすことができました。次回の研修会も楽しみにしています。

